



生活クラブ風車



夢風News

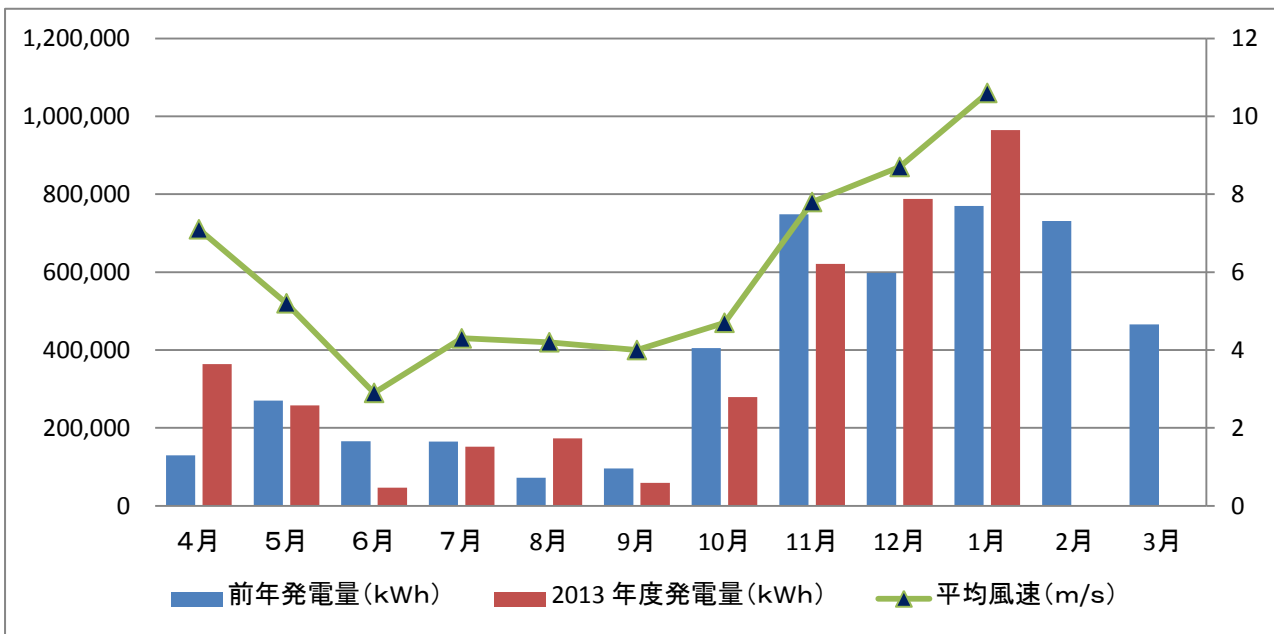
Vol.20

●発行 2014. 2. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

■ 風車の発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	364,062 【281.0%】	7.1	25.4	10月	279,036 【68.9%】	4.7	18.8
5月	257,970 【95.6%】	5.2	17.4	11月	620,896 【82.9%】	7.8	43.3
6月	46,516 【28.1%】	2.9	3.3	12月	788,121 【131.8%】	8.7	53.2
7月	151,543 【92.0%】	4.3	10.2	1月	964,320 【125.3%】	10.6	65.1
8月	173,115 【241.3%】	4.2	11.7				
9月	58,922 【61.3%】	4.0	4.1				



- ・1月も冬型の気圧配置となり曇りや雪の日が続きました。気象庁によると秋田県は日照時間が最も短く、日本海側の典型的な冬型の気候によるものです（都道府県庁所在地にある気象官署の平年値より）。
- ・今月もトラブルなく稼働し、平均で10m/sを超える強い風が吹いたことから、これまで最高だった先月の発電量をさらに更新し、96万kWhを記録しました。

■ グリーンファンド秋田理事会報告

- 2月5日、グリーンファンド秋田2013年度第4回理事会を開催しました。
- 第3四半期の決算は、売電売り上げ計画比112.3%、前年比217.9%の実績となりました。
- 2013年度決算予測及び2014年度予算についての1次討議を行いました。
- にかほ市との連携推進協議会の2014年度活動計画案と予算について承認しました。



生活クラブ東京・多摩統合センターの太陽光発電設備

- その他、生活クラブエナジーの設立について、夢風えねばその販売状況、生活クラブの太陽光発電設置の進捗などについて報告し確認しました。

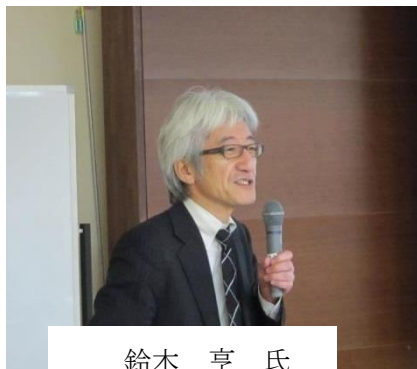
■ 電力および自然エネルギーに関する連続学習会（3、4回）の開催報告

生活クラブ首都圏4単協の自然エネルギー推進プロジェクトでは、自然エネルギー社会に向けた構想の具体化に向けて、おおぜいの組合員の理解と共感を高めていくために連続学習会を開催しています。今回は前回に引き続き第3回と4回のご報告です。

第3回は1月14日に認定NPO法人環境エネルギー政策研究所の飯田哲也氏を講師に、地域からのエネルギー革命の時代というテーマで、福島第一原発の現状から地域分散型のコミュニティパワーについて学習しました。飯田氏は「自然エネルギーは第4の革命と呼ばれるように倍々ゲームで加速度的に増えています。その最大の理由は地域分散や市民参加です。エネルギーは間違いなく、地域分散小規模ネットワーク型へ、使う側の目線へ、ガラッと変わりつつあります。」といいます。日本でも続々とコミュニティパワー（ご当地電力）が立ち上がっています。



飯田 哲也 氏



鈴木 亨 氏

第4回は2月5日に北海道グリーンファンドの鈴木亨氏を講師に自然エネルギー開発のためのファイナンスのしくみというテーマで、市民風車の取り組み、事業スキームとファイナンス、市民出資の方法などについて学習しました。鈴木氏は「風も森も川も地域の資源です。地域が主体となって、地域の循環経済を作っていく、そうして行くことで自然エネルギーが根づいていく。オーナーシップがエネルギーの変革にとって非常に重要だ。」といいます。市民出資で自然エネルギーを応援し参加するご当地市民ファンドが、広がってきています。また半澤代表から「首都圏4単協・自然エネルギー社会にむけた事業構想から連合総合エネルギー政策、生活クラブエナジーの設立へ」というテーマでまとめの提案がありました。

■ コミュニティーパワー国際会議 2014 in 福島 参加報告 ■

2月1日、2日、福島でコミュニティーパワー国際会議が開催され、国内外の再生可能エネルギー関係者が集まり、たくさんのセッションで熱い議論が展開されました。福島県は福島第一原発事故から4か月後に脱原発宣言をし、2040年までに再生可能エネルギーで全電力をまかなう事を目標としていきます。今回、この会議が福島で開催されたことの意義は大きく、特に、再生可能エネルギーの電力会社「会津電力」を立ち上げた大和川酒造の佐藤彌右衛門さんや、生活クラブ福島の組合員でもある会津自然エネルギー機構の五十嵐乃里枝さんが、震災直後から何度も何度も集まって福島の地で会津で何が出来るかを話し合ってきた、という思いは重く響きました。2日間にわたる会の終わりに宣言文を皆で確認しました。一部紹介します。「・・・再生可能エネルギーとは、風土とテクノロジーの結婚である。それはわれわれにとって、地域社会の自治と自立のための大切な拠り所であり、方法である。われわれは原発事故によって深く傷付いた福島の地に拠るがゆえに、原子力エネルギーという人智が制御しえぬ荒ぶる神の火を捨てようとしている。そうして、風や陽光や水の流れ、大地の熱や森の間伐材などからエネルギーを贈与していただく再生可能エネルギーへの転換を進めてゆくことを願う。福島はいま、再生可能エネルギーを携えて、始まりの土地になろうとしている。・・・」



ご当地電力大集合：日本各地で再生可能エネルギーに取り組む仲間たちが一同に揃う姿は圧巻でした。



セッション「コミュニティパワーラボ」では、再生可能エネルギーの発電側と需要側（消費者）の連携についての議論がされました。半澤代表が生活クラブの取組を報告しました。



Q：コミュニティパワーって、どういう意味？

A：コミュニティパワーは、日本語で言えばご当地電力、地域主体の再生可能エネルギー事業の事で、パワーには電力という意味と、力や権力という意味が込められています。

コミュニティパワーの定義は①地域のオーナーシップ②地域が意思決定する③地域が便益を共有するという3点です。オーナーシップというのは、所有ということもありますが、当事者意識という意味が大きい。便益というものも、直接お金が地域に入ってくるという事と、名前を付けたとかお祝いをしたという思い出や誇りという社会的便益の意味もあります。



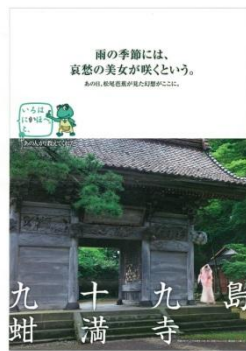
～あっという間の一年でした！～

生活クラブ生協の皆様、早いもので「夢風NEWS」に、にかほ市の観光情報を連載させていただき、あっという間に1年が経ってしまいました。なかなか、いいところを文字としてお伝えすることができなかつたと思いますが、伝わらなかったところは、直に皆様の目で確認！体感！感動！してもらえたらと思います。

さて、今「にかほ市」では、訪れるお客様に対して、どうしたら満足してもらえるのか、また「にかほ市」の名前を広く知ってもらえるのかを真剣に考えており、ありきたりなのかもしれませんが、その取り組みの一例をご紹介しますと思います。

★体を張りました。市職員！

その取り組みの一つとして、本市観光ポスター（左参照、B0サイズ・4連バージョン）を紹介したいと思います。夢風NEWSでも取り上げた「中島台①」「蛸満寺・九十九島②」「元滝伏流水③」の各観光ポイントを題材にして、作成したのですが、どのポスターにも「妖精？秋田美人？」が、映っております。種を明かすと、すべて我が「にかほ市」の3名の職員です。私も撮影に同行しましたが、雨天の中や、水しぶきをあびての、体を張ったポスターづくりでした。



★宣伝の裏方、現る！

右の写真については、年4回発行の「季刊誌」として、昨年夏から秋、冬号まで作成したものです。もうすぐ春号が完成いたしますので、年間分が出そろふこととなります。この後、この季刊誌での情報をギュとまとめた「総合版」も近々完成しますので、季刊誌と併せて、にかほ市のために頑張っ？もらふこととなっております。



★最後にひと言 「くれば分かるさ、にかほ市を…！」

最後になりますが、いかにして「にかほ市」の知名度を上げていったらいいのか、喜んでもらえるのかを考え、本年度においては、いろいろと取り組んできたものの中から、第一弾としての取り組みを紹介してみました。昨年秋には、生活クラブ東京と千葉からの御一行様が、にかほ市を訪れてくれました。初めてのにかほ市訪問ではありましたが、大変喜び、感動？してくれたのが、印象に残っております。こういった出会いを大切に、この出会いの輪を広げていけたらと思いますので、今後ともにかほ市をよろしく願ひいたします。

百聞は一見にしかず！観光課職員一同、皆様をお待ちしております！